

氏名	後藤有三
学位の種類	医学博士
学位授与番号	乙才169号
学位授与の日付	昭和41年6月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)
学位論文題目	同種皮膚移植に対する局所リンパ節の反応 第1編 第1次および第2次反応における局所リンパ節の 重量DNAおよびRNA含量の変動 第2編 局所リンパ節の及ぼす Complete Freund's adjuvant の影響 第3編 局所リンパ節の反応に及ぼす Cortisone ならびに Cyclophosphamide の影響
論文審査委員	教授 砂田輝武 教授 尾曾越文亮 教授 田中早苗

学位論文内容の要旨

移植免疫における局所リンパ節の役割を明らかにするために、成熟家兔の片側の耳介背側に同種皮膚移植を行ない、同側の耳介根部にある局所リンパ節の反応を主としてリンパ節の重量、DNAおよびRNA含量の増加率を指標として検討した。まず、第1次および第2次反応について局所リンパ節の増生反応と移植片の生着期間との関係を調べてみると、両者の間には密接な関係が認められ、第2次反応では局所リンパ節の増生反応は第1次反応におけるより早く、かつ高度におこり、移植片の生着期間も短縮された(第1編)。しかし、Complete Freund's adjuvant によって局所リンパ節の増生反応を増強しても、移植片の生着期間は全然短縮されなかった(第2編)。つぎに、Cortisone ならび Cyclophosphamide を投与すると、局所リンパ節の増生反応は著しく抑制され、移植片の生着期間も著しく延長された。しかし、この場合にも軽度の増生反応が認められ、移植免疫においても非特異的増生反応が存在することが推定される(第3編)。

論文審査の結果の要旨

後藤有三提出の「同種皮膚移植に対する局所リンパ節の反応」に関する学位論文につき審査した結果の要旨は、次の通りである。

この論文は移植免疫における局所リンパ節の増生反応をリンパ節の重量のみならずそのDNAおよびRNA含量の増加率を指標として定量的に追究したもので、3編からなる。第1編では、第1次および第2次反応について局所リンパ節の増生反応と移植片の生着期間との関係が調べられ、第2次反応では局所リンパ節の増生反応が第1次反応におけるよりも早く、かつ高度におこり、移植片の生着期間も短縮されることが述べられている。第2編では、Complete Freund's adjuvant によって局所リンパ節の増生反応を増強しても、移植片の生着期間は短縮されないことが明らかにされている。第3編では、Cortisone ならびに Cyclophosphamide を投与すると局所リンパ節の増生反応が著しく抑制され、移植片の生着期間が著しく延長されるが、このような場合にも局所リンパ節には軽度の増生反応が認められるので、移植免疫においても非特異的な増生反応の存在することが推論されている。

以上の通り本論文は新しい知見に富み、学術上有益であり、著者は医学博士の学位を授与されるべき学力を有すると認める。